

団体名	広島県	所属	教育委員会教職員課	他団体等との連携	—
連絡先	採用研修係 (082)513-4927				

取組事例名	育児休業から教育現場の第一線に復帰する教職員の研修の実施	取組期間	平成25年11月～
--------------	------------------------------	-------------	-----------

取組の概要 ～ 育児休業から教育現場の第一線に復帰する教職員の研修の実施

育児休業中の教職員を対象に、再び教育現場の第一線で、継続して働く意欲の向上を図ることを目的に、新規の研修プログラムを開発し、正式な研修として実施した。

取組の背景 ～ 復帰に当たっての教職員特有の不安

教職員においても一般職員と同様に、子供が3歳に達する日まで育児休業の取得が可能となっており、育児休業を取得した場合は、相当の期間、学校現場から離れた後に復帰することとなる。

一般に、教職員は、教室で1人で子供たちと直接向き合うため、事務職員と異なり、分からないことを周囲に聞きながら進めるなどといった、同僚のサポートを簡単に得ることができない特殊な状況にある。

育児休業からの復帰に当たっては、両立支援のための周辺支援に留まらず、そういった現場感覚を取り戻させることが非常に重要であるとともに、復帰に当たっての大きな不安となっている。

取組のねらい ～ 復帰者の不安解消と教育現場のニーズに応える

子育てサポートなどの育児休業復帰者へのサポートに留まらず、教育現場が求める内容についても盛り込んだ研修を実施することで、育児休業復帰者の不安を取り除くとともに、教育現場のニーズにも応えていく。

取組の具体的内容 ～ 育児休業から安心して復帰するための研修

- 1 研修名**
育児休業から安心して復帰するための研修
- 2 主な内容**
 - (1) 教育の現状 ～今、本県が取り組んでいること～
 - (2) 仕事と子育ての両立を支援する制度の概要
 - (3) 復帰後の子どもの心理的ケア
 - (4) 参加者同士の交流
- 3 日時**
平成25年11月9日(土) 13:30～16:30
- 4 場所**
エソール広島(広島市中区富士見町11-6)
- 5 参加者数**
57人
(募集人数40人、応募者数87人)

無料
託児有

職場復帰に不安がありませんか？一人で悩んでいませんか？

平成25年度
育児休業から安心して復帰するための研修

本県教育の現状について理解を深めるとともに、仕事と子育ての両立についての不安を解消し、安心して職場復帰していただくことを目的として研修を行います。
復帰に向けて、準備を始めてみませんか。

日時 平成25年11月9日(土) 13:30～16:30(受付13:00～)

場所 エソール広島(広島市中区富士見町11-6)

対象 育児休業から復帰する県費負担教職員 40人程度


主な内容 教育の現状～今、本県が取り組んでいること～
仕事と子育ての両立を支援する制度の概要
復帰後の子どもの心理的ケア
参加者同士の交流
(復帰に向けて、準備している事や悩みを話してみませんか?)

申込方法 参加申込書に御記入の上、所属校を経由して申し込んでください。

注意事項 育児休業中の任意の研修のため、旅費の支給や公務災害等の補償はありません。自己の責任において参加していただくこととなりますので、御了承ください。

その他 無料の託児を行います。

申込み・お問い合わせ先
広島県教育委員会事務局管理部
教職員課 採用研修係
TEL 082-513-4927
FAX 082-227-8027
住所 〒730-8514
広島市中区基町9-42
Eメール kyoutikukenshu@pref.hiroshima.lg.jp



取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 参加者の負担軽減など

研修の企画に当たっては、参加対象者が育児休業中であることを考慮し、参加者の負担軽減に向けた環境整備と、復帰後の実務に真に有用となるよう、プログラムの質の向上を図る必要があった。

創意工夫した点 ～ 参加しやすい環境づくりや復帰後に有用となるプログラム作成

研修の実施に向けて、育児休業取得経験のある教職員や学校長へのヒアリングを重ね、託児所設置や保険の加入などの参加しやすい環境づくり、復帰への不安解消、復帰後の実務に繋がるプログラムの作成などに特に力を入れた。

《研修プログラムの特徴》

- 1 子供と一緒に参加できるよう無料の託児所を設けた。
※託児所設置に当たり広島県男女共同参画財団と連携
- 2 参加者は育児休業中のため公務災害の対象外となることから、参加者及び託児所に預けられる子供に対して、事故やけが等に備えた保険に加入し、参加者が安心して研修に参加できるようにした。
- 3 「休日の方が参加しやすい」という声に応え、週休日の研修とした。
- 4 職員がデザインしたイラストなどを使用したチラシを作成し、所属校を通して、参加者を募集するとともに、「参加申込用紙」と合わせてHPに掲載した。また、この取組自体を広く周知するために対象者がいない学校へも実施の通知とチラシ配布を行った。
- 5 研修内容は、育休復帰後のサポートなどの両立支援だけに留まらず、教育委員会及び学校現場としても復帰後の教育活動に取り入れてほしいものを盛り込んだ。

取組の成果（効果） ～ 予定を上回る参加者数、熱心な受講態度、高い肯定率

研修を実施したところ、予定を上回る参加者があり、どの受講者も非常に熱心に受講していた。また、研修アンケートの回答や講師からの評価も非常に高かった。また、復帰した学校からの評価も高い。

《成果の概要》

- 1 受講人数は40名を予定していたが、参加希望者は80名と大幅に予定を上回る反響があり、会場の収容人数、託児等の関係から、平成26年4月1日までに復帰予定の57名に絞らざるを得なかった。（欠席者なし）
- 2 受講者の態度は、「学びたい!」という意欲と熱気に満ちたものであり、外部講師からも、前向きで熱心な気持ちを感じたとの評価をいただいた。
- 3 各研修内容のアンケートの肯定率は非常に高かった。特に「復帰後の子供の心理的ケア」は100%であり、そのことから、受講者の多くが不安に思っていることも分かった。また、「休日だったので、受講しやすかった」「無料の託児所があったので受講できた」という声があり、受講しやすい環境整備が大切であること、「教育現場の現状や自分に求められていることが具体的に分かって復帰への意欲が高まった」「制度や子どもの心理ケアの話により、不安が軽くなった」という声が多く、育休者が現場から離れていることに対する不安を抱えていること、その不安の解消が復帰への意欲へつながることが分かった。

今後の展開 ～ ブラッシュアップ、継続支援

予想を上回る応募があったことから、平成26年度は研修回数を2回に増やし、会場もそれぞれ別々の2会場で実施することにした。研修の内容についても、育休復帰者のニーズに応えるとともに、教育現場が求めていることを伝えていけるよう、さらにブラッシュアップを進め、安心して職場に復帰し、仕事と子育てを両立しながら、教育現場の第一線で働き続けられるよう、引き続き、支援していく。

他団体へのアドバイス ～ 復帰者、復帰職場双方に有用

育児休業中の職員は、職場復帰に向けて少なからず不安を抱えているものと思われるが、その不安は、必ずしも、子育てに限ったことだけではない。特に、専門技能を要する現場への復帰を控えた職員であれば、自身の専門職としての技量や職場環境の変化など、仕事に対する不安というものは非常に大きいと考えられる。

また、自治体における昨今の財政状況や住民のニーズの多様化から、職員一人ひとりに求められる業務量や専門性への要求はますます高まっていくことが考えられる。

そういった状況を踏まえると、育児休業から復帰する職員へのサポートは、復帰職員本人にとっても復帰職員を迎える所属にとっても、非常に有用なものである。

教職員のような人数規模の大きな職種でない研修の実施までは困難であるかもしれないが、そういった状況が常にあるということを意識した復帰職員へのサポートが求められていると考える。